

かんちけん倶楽部

■ 会員のみなさまへ ～国際乾燥地研究教育機構の設立にあたって～

鳥取大学学長 豊島 良太



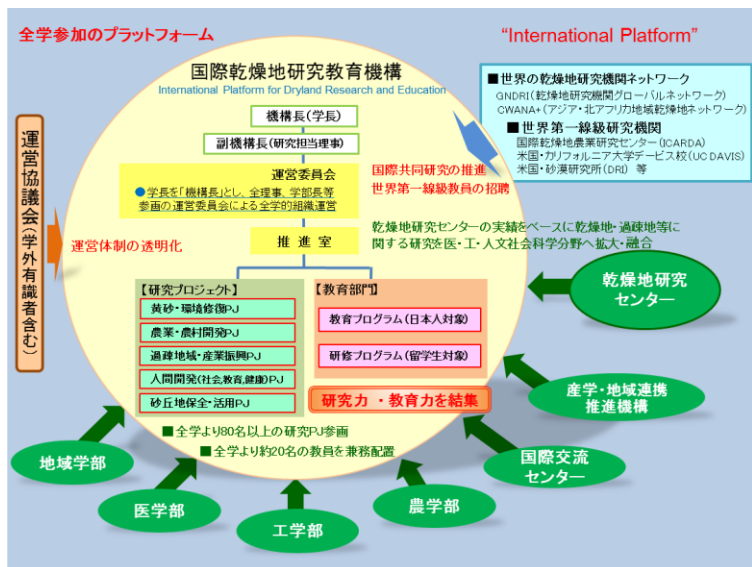
雨後の新緑がひととき濃く感じられる季節となりました。会員のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成2年に全国共同利用施設として設立された乾燥地研究センターは、日本で唯一の乾燥地研究機関として多くの実績を積み重ねてまいりました。

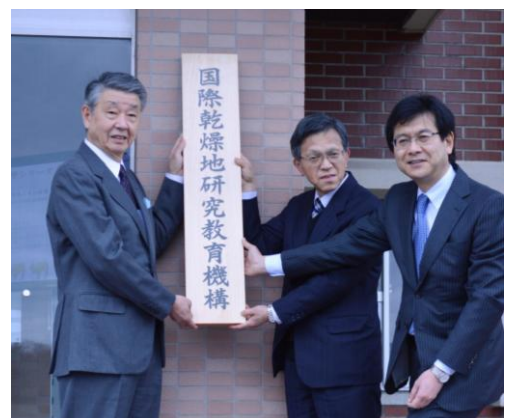
全国の国立大学が大きな変革の波にさらされるなか、鳥取大学といたしましても、乾燥地研究センターの有する実績、ブランドを更に際立たせた改革を進めることで、地域に根ざし、世界に羽ばたく大学として生き残りを図りたいとの考えのもと、乾燥地や開発途上国等に関する研究・教育を全学体制で展開するための組織「国際乾燥地研究教育機構」を平成27年1月に設立いたしました。

簡単に国際乾燥地研究教育機構について紹介いたしますと、まず、農学分野にとどまらず、医・工・人文社会科学分野の教員が参画する、全学参画型の研究プロジェクトを5つ立ち上げました。教育面では、留学生および日本人学生向けの教育・研修プログラム等を企画・実施する教育部門を設置しました。それぞれが連携しつつ、乾燥地や開発途上国地域の社会開発に貢献できる研究、人材育成を進めてまいります。

また、国際乾燥地研究教育機構のミッションには、世界の乾燥地や開発途上国等の持続可能な開発への貢献にらび、得られた知見の実現化・地元鳥取の地方創生への貢献が掲げられています。乾燥地研究の起源は、大正12年に農学部の前身である鳥取高等農業学校に湖山砂丘地試験地が設けられた頃までさかのぼることができます。以来、地域の農家の方々と一緒になって農業利用研究を進めてきた先人の取組みを今一度思い返し、より一層、地域に根ざし、地域に必要とされる大学を目指す所存ですので、会員のみなさまにおかれましても、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。



国際乾燥地研究教育機構の運営体制イメージ図



オープニングセレモニー(1月13日)での看板掲げの様子

* 当記事のように、国際乾燥地研究教育機構の活動などの内、乾燥地研究センターと関わりの深いものについては、今後もかんちけん倶楽部で紹介していきます。

■ ハルツーム大学と学術協定を更新

5月10～14日までの間、ハルツーム大学（スーダン共和国）から、アハメド・モハメド・スレイマン教授（学長）、オーシェック・アブ・アシャ・セイディ教授（科学研究及び文化交流担当理事）、ムバラク・アブデルラーマン・アブダラ教授（砂漠化及び砂漠栽培学研究所所長）の3名が鳥取大学を訪問しました。ハルツーム大学は、1902年創設のゴードン記念カレッジに由来する由緒ある大学で、アフリカのみならず中近東を含め、最大の大学の一つとして知られています。今回の訪問の目的は鳥取大学とハルツーム大学が2010年に締結した学術交流協定の更新で、5月11日に、鳥取大学豊島学長とスレイマン学長による協定書への署名が行われました*。

協定書への署名に先立ち、スレイマン学長一行は乾燥地研究センターを訪問し、恒川センター長をはじめ関係者との懇談や、乾燥地研究センターで学んでいるスーダン出身者との交流を行いました。

鳥取大学では今年の1月に、国際乾燥地研究教育機構が立ち上がりましたが、この機構を通じてもハルツーム大学と鳥取大学の共同研究が進められます。5月末には、機構から塩類集積問題対応グループ、耐乾性作物育種開発グループ、獣医・畜産グループがハルツーム大学を訪問し、共同研究の第一歩を踏み出しています。

* 鳥取大学ホームページにおいて、ハルツーム大学学長の表敬訪問が報告されています：<http://www.tottori-u.ac.jp/item/13292.htm>

■ 気象観測露場を移転しました

2014年12月19日、当センターの本館手前にあった気象観測露場を共同実験農場に移転しました。移転の理由は、2010年8月の国際ナショナルアリドロボ建設により、観測地点周辺（鳥取砂丘）を代表する気象観測が出来なくなったと考えたためです。当センターが位置する鳥取砂丘の気象要素を継続的に正確に計測することを目的に、1990年に旧露場に自動気象観測システムが導入されました*。気象庁のアメダス観測所などでは、日射の照り返し防止などを目的に芝生が植えられていますが、当センターでは砂丘環境を考慮して砂地での観測を実施しています。新旧両露場ともに10m×10mの大きさで、気温、湿度、降水量、蒸発量、地温を観測しています。風向・風速、日照時間、全天日射量は、以前と同様、本館屋上において観測を継続しています。

鳥取砂丘の気象要素を継続的に正確に計測し、データを蓄積していくことは、当センターの研究ならびに共同研究に役立つだけでなく、地球温暖化等の気候監視にも役立つと期待されます。

* 自動気象観測システム導入前から、手動観測は行われていました。



乾地研入り口にて、スレイマン学長、セイディ教授、アブダラ教授(左から3, 2, 5人目)と記念撮影。



ハルツーム大学農学部・砂漠化及び砂漠栽培学研究所を山中教授らが訪問(2015年5月)。



百葉箱(写真中央)が残っているところが旧気象観測露場跡地。左奥の円形の茶色い建物が国際ナショナルアリドロボ。



新気象観測露場(写真中央手前のフェンスに囲まれたところ)と周辺環境。



新気象観測露場

■ 「アリドンの地上絵」 on Google Maps

かんちけん倶楽部 Vol. 13(2)(2013年9月発行)の記事「乾燥地植物資源バンク室」におきまして、アリドーム横の未耕地(50m×90m)を大きなキャンパスに見立てて、植物と砂の対比で描いた乾燥地の分布が分かる世界地図「アリドンの地上絵」を紹介いたしました。現在、この地上絵を Google Maps および Google Earth でご覧いただけます。



Google Maps で見た「アリドンの地上絵」

Vol. 13 で掲載した地上絵写真は、植物が茂る夏(2013年)に撮影しましたので、砂の白(世界の乾燥地)、植物の緑(湿潤地)、裸地の茶色(海)のコントラストがはっきりしていましたが、Google Maps の写真は1年以上経過した晩秋(2014年11月)撮影のため、残念ながら不鮮明です。しかし、Vol. 13 の写真は南米大陸側の建物屋上からの撮影だったため、ヨーロッパやアフリカ大陸は見えませんでした。Google Maps は真上(上空)からの写真ですので、世界地図を確認しやすくなっています。Google Maps において、キーワード「乾燥地研究センター」で検索し、表示形式を航空写真に切り替ええるとアリドンの地上絵が見えます。Vol. 13 の写真と併せてご覧下さい。

※過去のかんちけん倶楽部：<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/kantikenclub/papers-index.html>

乾地研のひと (新任者紹介)

〈外国人客員教授 アモニエ、フィレオ タゲン〉

エチオピアのバハルダール大学で准教授をしている AMOGNE, Firew Tegegne です。農業は、エチオピア経済の中心で、経済成長や産業化への役割を期待されています。畜産は国内農業GDPの45%を占めますが、その潜在能力に比べると、いまだに生産力は低いままです。その原因は家畜の栄養不足や環境問題等です。自然放牧地での放牧は、深刻な土地劣化を引き起こすため、家畜の自由放牧は法的に規制されています。そこで、私は乾燥地研究センターにおいて、保全型の家畜飼料生産ならびに青ナイル上流域における水・土壌保全地域および共有地における放牧禁止の状況について研究しています。作物栽培・家畜・自然資源の関係性に関する農家の認識を評価し、環境保全型の家畜飼料生産の利用への転換を探ることは畜産の転換をはかる上で不可欠です。



〈国際乾燥地研究教育機構・准教授 大谷眞二〉

臨床の傍ら、兼務教員として乾地研の保健医学分野の仕事に携わって8年近くになりますので、新任者として紹介されるのは恥ずかしい限りですが、4月に機構の専任教員として医学部から異動し、心機一転、あらたな気持ちでスタートしました。5つある機構のプロジェクトのひとつ「人間開発プロジェクト」の中の「気候変動と健康グループ」の担当をしています。これまでの黄砂研究やモンゴルでの調査を発展させるとともに、新たな分野も開拓したいと考えています。



エジプト、カイロでの一コマ

－ 活動報告 －

■ サイエンスカフェ@ALRC (4～6月)

研究する上で感じたこと、普段の生活や海外調査の様子について語り合い情報を共有するための場として、サイエンスカフェを開催しています。4～6月は、以下のようなテーマで行いました。

- 第45回 鳥取発、ITPで行く！ぐるっと満腹イタリア 7都市の旅～ - すべての道はローマに通ず omes viae Romam ducunt - 稲垣 岬(農学研究科修士2年) (2015.4.28)
- 第46回 ようこそ氷の砂漠へ～地球環境の窓、南極からみえてくるもの～ 大谷真二(国際乾燥地研究教育機構) (2015.5.19)
- 第47回 Egypt's window on the world. By Hassan Mohamed Abd El Baki (乾燥地研究センター 研究生) (2015.6.17)

毎月第2、第4水曜日、17時半より開催しますので、ぜひご参加下さい。詳細ならびに今後の予定はホームページをご覧ください。

http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/seminar/s_cafe/s_cafe_index.html

－ お知らせ －

☆ 乾燥地研究センター一般公開、砂漠博士のご案内

乾燥地研究センターでは、センターの研究活動を広く一般のみなさまにご理解いただくため、毎年、一般公開と砂漠博士を実施しています。2015年度は8月8日(土)に開催することが決定しました。

今年度の小学4～6年生を対象とした体験型実験イベント「きみもなろう！砂漠博士」(要申込)は、「風速計を作って風紋を調べよう」をテーマに実施いたします。一般公開(申込不要)は、講演会「鳥取砂丘の風と砂移動」(木村玲二准教授)、アリドドーム等の施設見学、砂丘ナイトツアー、砂絵づくり、ミニ実験コーナーなどを行う予定です。多くの方のみなさまのご来場をお待ちしております。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/study/dome-2015.html>



☆ 乾燥地学術標本展示室の休日公開

乾燥地研究センターでは、土・日・祝日の12～16時、「ミニ砂漠博物館」を公開しています。入場無料、予約不要ですので、この機会に是非ご覧ください。

【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局
鳥取商工振興協会 〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL (0857) 26-6886 FAX (0857) 22-0155